

「国境のない建築家」への道

明治大学 理工学研究科 建築学専攻 国際プロフェッショナルコース (I-AUD)
 「明治大学／チュロンコン大学 都市建築デザイン合同ワークショップ」参加者

原田 爽一朗 / Tripoom Praphonphan / Sébastien Latxague

山田 光里 / 大庭 みゆき / 秦野 早紀



向かって左から、原田さん、Praphonphanさん、Sebastienさん、山田さん、大庭さん、秦野さん

2014年1月11日から17日まで、バンコクの明治大学アセアンセンターにおいて「明治大学／チュロンコン大学 — 都市建築デザイン合同ワークショップ」が開催されました。

本ワークショップは、本学理工学部建築学科の小林正美教授及びマニユエル・タルディッツ特任教授の指導の下、本学から理工学研究科建築学専攻 国際プロフェッショナルコース (I-AUD) の学生18名と、協定校であるチュロンコン大学建築学科国際デザインコースの18名が参加しました。

ワークショップは「水といかに付き合って暮らすか？—カディジーン地区とクロンサン地区のケーススタディー」という研究テーマのもと進められました。洪水や津波など日・タイ両国が共通に抱える水害の問題を考えるとともに、農業や生活の重要な要素である「水」と今後どのように付き合って暮らすかをテーマとし、これからのウォーターフロントの開発のありかた、コミュニティ形成のあり方について研究、新しいデザイン的解決方法の提案をするという内容でした。

明治大学アセアンセンター (MAC) では、タイの印象やこのプログラムに参加して学んだことなどを、参加した学生の皆さんにインタビューしました。



理工学研究科 建築学専攻

国際プロフェッショナルコース (I-AUD) Website : <http://meiji-architecture.net/iaud/>

Q: タイの印象はいかがでしたか

大庭：私にとって、今回のWSが初めてのタイでした。ご飯が美味しく、物価が安いというのはもちろんのこと、最初の印象としては、インフラがしっかりと整っていると感じました。

その一つがスカイトレインと呼ばれる高架鉄道（BTS）とその軌道下を有効活用した空中歩道の拡充です。その要因の一つとしては、1973年にタイ初のショッピングセンターとして開業して40年になる、サイアム・センターを中心に、その他の大型施設の相次ぐ新設・改装によるもので、それと並行し、街を周回する空中歩道の整備も進んできたのだと感じました。インフラが整って来ている分、今後のタイの再開発の行方が気になります。

また、再開発されている地域の裏には、まだ昔の面影を残したままゆっくりと時間が経っている場所も多くありました。歴史のレイヤが街の中に垣間見えるのも、タイの魅力的なところですよ。

タイと言えば、「水上マーケット」というイメージが訪れる前からありましたが、バンコク市内で水上バスが市民にとって日常的に使われており、タイの人々の親水性を感じる事が出来ました。私自身も、アセアンセンターに行く際、「安い・早い・タイっぽい」ということから、日常的に使っておりました。

現代的な大きなデパートやビルなどの建物群周辺には、屋台があり、RC造の集合住宅が多く建ち並ぶバンコク市内は、夜になると、屋台やバーを楽しんでいる風景から、経済成長を目指すアジアの夜を感じることができ、きっと私が次行く頃も、活気に溢れ変化し続けているのだらうと思いました。

Q: 明治大学アセアンセンターの印象はどうか

山田：今回はアセアンセンターで私たち理工学研究科建築学専攻国際プロフェッショナルコース（I-AUD）の学生18名と、協定校であるチュロンコン大学建築学科国際デザインコースの18名で都市建築デザイン合同ワークショップを行い初めて利用させて頂きました。

まず初めの印象は、教室がとても綺麗だったので驚きました。そしてWi-Fi環境も良くほとんどワークショップのためだけに教室を利用させて頂いたので、非常に作業に集中できる環境でした。



指導教員との真剣なやり取り

なりよりもアセアンセンターの職員の方々が皆さん優しく、美味しい飲食店を教えてください、学生の私達にも声をかけて下さいました。その他にもプレゼンテーションのため徹夜で作業する私たちのために1日中アセアンセンターを開けて下さり、プレゼンテーション会場と一緒に準備して下さいたり非常に協力的な方で、整った環境で成果を発表することが出来ました。

Q: 今回のワークショップの感想は

原田：今回のワークショップではタイチュラロンコン大学の学生と合同でチームを編成し、それを元にクロンサン地区の調査から開発までの提案を一週間で行いました。

実際に歩いてタイの都市を理解し、そこから具体的な提案まで行うことで敷地調査だけでは見えないタイの都市が抱える問題や魅力について議論を重ねながら考察することができました。私の班ではクロンサン地区の新たな駅周辺の再開発に取り組みました。短い時間ではありましたが既存の街とのつながりを包括的に考え活気あるまちを目指して提案しました。成長著しいタイの躍動力を肌で感じ、得た今回の貴重な経験は、今後日本に限らず世界を舞台に仕事をしていくための原動力になると思います。

Q: 国際プロフェッショナルコース (I-AUD) について

Sébastien: This program has only English speaking classes so I improve a lot my English skills, as much as Japanese students, during my exchange program (that was the first goal of this exchange). All teachers and students enjoyed practice architecture vocabulary and we learn a lot of new concepts with this language. We also meet other foreign students during three international workshops organized in Meiji Nakano Campus with American students, in Hong Kong with Chinese students and then in Bangkok with Thai students. That was each time a great opportunity to compare our visions of architecture and urban design and mix that in group projects. That was also an interesting way to travel and study foreign cities in Asia. These travels get me more cloth to Japanese students and I could appreciate more deeply their way of thinking and living. The professors' team helps us a lot to develop our projects according to these different cultures. I learned from Japanese students how to get my presentations more clear and strong and from teachers how to choose the good words to communicate my ideas. We had always great presentations, like professional ones, with all the technical displays we need to make it effective and some invited guests came to listen and advise us for our final reviews.

Q: 今回の経験をどう生かしたいですか

秦野：私は今回のワークショップで初めてタイに行きました。初めての都市や文化の中でのワークショップではいろいろな発見をすることが多く、敷地調査一つとっても常に新しいことだらけでした。

そんな環境の中で気づいたことをどんどん話しながら議論が進んでいきました。タイでは常識のことが私にとっては不思議に感じたところから話が盛り上がったり、私が日本で学んでいる内容をタイの敷地の中で応用できるかどうか話し合ってみたりもしました。

様々なバックグラウンドを持つ人が集まったからこそたくさんの方の見方やたくさんの議論が生まれるのだと感じたワークショップでした。今回初めて訪れる都市の計画をするうえで、知らないことを恥ずかしながら話せた積極的な姿勢がたくさんの議論につながったと感じています。このような姿勢を忘れずに、今後もまだ知らないことに挑戦していきたいです。



グループワークの様子

Q: タイと日本の違いは？

Praphonphan : Difference between Japan and Thailand Since I have studied already one year in Japan, I have got used to here and noticed the major differences between my hometown and here. The climate is totally different, we have only hot, rainy and dry season with an average temperature of 30 Celsius, whilst here in Japan there are four seasons and the temperature ranges are very high. Therefore, the scenery of Japan is different throughout the year while Thailand remains similar. Thailand and Japan both have rich culture and extensive history, however it have developed into different social style. People in Thailand are more laid-back, and lives are slower paced, while Japan is a very diligent and hardworking country. I find Thailand more art-orientated and people tends to do own businesses, and enjoying arts, crafts, cooking etc. while Japan mainly focus on business efficiency and economics. I also noticed myself that I only travel in Japan using trains, as travelling in Japan is all about railway system, which also differs from Bangkok in that we use roads more. It is fascinating whenever I travel back and forth Tokyo and Bangkok, witnessing the difference of people' s lives and climate. The more I travel between these two cities, the more I' ve come to love their different aspect. Now I feel I have two places where I belong as home.

お忙しいところ、インタビューに答えてくださってありがとうございました。
みなさんの今後のご健闘をお祈りいたします。



アセアンセンターのラウンジで一休み



ワークショップ終了後に皆で写真撮影